

いらない!!原子力空母 来るな!!原子力潜水艦

原子力空母が火災事故

日米両国政府は、神奈川県にある米海軍横須賀基地へ、原子力空母「ジョージ・ワシントン」を配備することで合意しました。「ジョージ・ワシントン」は太平洋各地で訓練や演習を行いながら、8月19日に横須賀基地に入港する予定でした。ところが南米沖での訓練中に火災事故を起こし、修理のために米本国に帰還してしまいました。現在、「ジョージ・ワシントン」の横須賀入港は、9月下旬とされています。

米海軍は7月31日に、「空母ジョージ・ワシントンに係わる調査完了及び艦長等の解任」を発表しました。この発表では、火災原因はタバコの投げ捨てで、艦上3800区画のうち80区画が延焼し、消化に要した時間は12時間で、修理費は約7千万ドルの重大事故であったことが明らかになりました。しかし、日本の市民が最も心配している、火災事故が原子炉に及ぼした影響については、何も書かれていませんでした。

●こんどは殺人事件

8月19日、原子力空母「ジョージ・ワシントン」の乗組員が、殺人事件で逮捕されました。乗員2人は、寄港先のサンディエゴで口論から発砲し、1人を死亡させたようです。

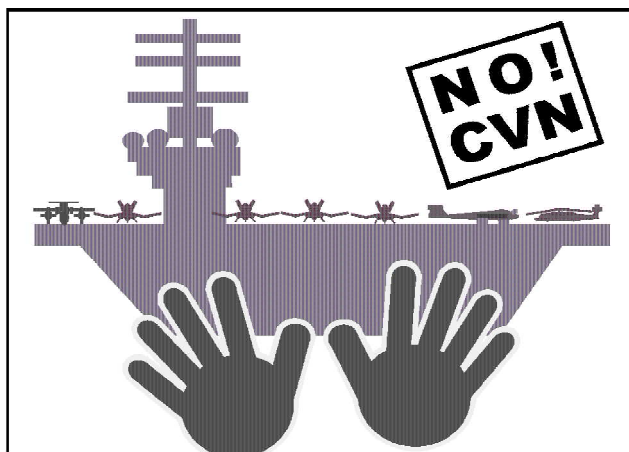
外務省を訪れた米大使館と在日米海軍の責任者が、同艦の火災事故に関して、艦長・副艦長の解任と、規律の一層強化を伝えたのは、7月31日のこと。それから1月もたたないうちに事件が起きたのです。

原子力潜水艦が放射能漏れ

8月2日には、米海軍の原子力潜水艦「ヒューストン」から、放射能を含んだ冷却水が漏れ出していたことが明らかになりました。米側の報告では、放射能漏れを起こしていた期間は06年6月から08年7月までの2年間です。この間に「ヒューストン」は、長崎県の佐世保基地に5回、神奈川県の横須賀基地に1回、沖縄県のホワイトビーチに5回、寄港していました。

米海軍は、漏出した放射性物質は人や環境には影響の無い範囲としています。しかし、どの部分から、どのくらいの放射性物質が漏出したかなど、具体的な内容は明らかにしていません。

「ヒューストン」の放射能漏れが見つかったのは、7月24日でした。ところが米側から外務省に連絡が入ったのは8月1日です。日本に寄港している間に、放射能漏れ事故を起こしておきながら、連絡に1週間もかかっているのです。



ここが問題!! 原子力艦の事故

問題 1 火災原因はタバコ

米海軍は7月31日、「ジョージ・ワシントン」の火災原因を記者発表しました。また同日、米大使館と在日米海軍の責任者が外務省を訪れ、記者発表を説明しました。内容は、外務省のホームページに掲載されています。記者発表のポイントは右欄の4つです。

このとき米国側から、「今回のような火災は原子炉・推進機関の安全性に影響を与えるものではない」と説明があったようです。これを受けて外務省は、「原子力軍艦の我が国寄港時の安全性を改めて確信した」と述べています。ところが米海軍の記者発表には、原子炉が安全だった根拠や、具体的な調査内容などは書かれていません。

今回の事故では原子炉は無事だったかも

しれません。しかし、火災によって停電が起き、原子炉の制御が利かなくなる可能性もあります。米海軍の記者発表だけでは、将来起こるかもしれない原子炉事故の可能性が、否定されたとは考えられないのです。

●米海軍記者発表のポイント●

①火災の原因は、禁煙エリアでの喫煙。タバコの火が、置いてはいけない場所に置かれていた可燃性液体・物質に引火した。

②消火までに12時間かかった。37名の船員が負傷し、3800区画のうち80区画が被害を受けた。

③修理にかかった費用は7千万ドル。

④艦長と副艦長を、指揮能力・即応体制・職務実績が基準以下であったとして解任した。

問題 2 米軍兵士のモラル

外務省は、「米海軍の原子力艦の安全性」というパンフレットを発行しています。この中では、原子炉事故が起こる原因として、構造的な欠陥と、運転要員のモラルの低さの2つをあげています。

特にモラルについては、旧ソ連で起きたチェルノブイリ原発事故を事例に、「危険な原子炉で、運転員が、専門家の適切な監督も受けずに、重大な規則違反をいくつも重ねたという、信じがたい安全文化とモラルの欠如が引き起こした事故」と指摘しています。

さて、「ジョージ・ワシントン」の火災原因は、禁煙エリアでの喫煙でした。艦長と副艦長は、監督責任を問われて解任されま

した。外務省のパンフレットに当てはめれば、「ジョージ・ワシントン」は乗員のモラルが低く、原子炉事故を起こす可能性がある危険な艦船だと思われます。

そこで外務省に、見解を聞いてみました。外務省によると「ジョージ・ワシントン」の乗組員は、「原子炉の損傷に至るほどは、モラルは欠如していない」そうです。



問題 3 放射能漏れの詳細は不明

原子力潜水艦「ヒューストン」の放射能漏れに関して、外務省は記者発表を出しています。また米側の「インフォメーション・シート」も公開されています。しかしこれを読んでも、事故の詳細は分かりません。

放射能漏れは、7月24日にハワイで行われた定期点検で発見されました。米側は放射能漏れの時期を、06年6月から08年7月までとしています。しかし始まりが06年であることを示す資料はありません。それ以前から漏れていた可能性もあります。

また、冷却水は使用場所によって、1次冷却水、2次冷却水、その他——の区分けがあり、放射能含有量も異なります。しかし外務省の発表は「冷却水」というだけで、どの部分からの漏出が明らかにしていません。詳細が不明なのですから、米側や外務省が人体や環境に影響は無いといっても、信じることはできないでしょう。

●放射能漏れに関する外務省の見解

⇒「原潜「ヒューストン」の今回の全航海中に漏洩し得た全体の放射能の量は、0.0000005キュリー（肥料1袋に存在する程度の量）であり、人体や環境に影響を与えるものではない。」

⇒「日本へのすべての寄港の間に漏れた放射能の量をすべてあわせたとしても、一般家庭用煙検知器に含まれる放射性物質の量よりも少ない。」



●放射能漏れを起こした原子力潜水艦「ヒューストン」

問題 4 人に影響なければいいのか

パンフレット「米海軍の原子力艦の安全性」には、以下のような記述があります。

⇒「まず、米海軍の原子力艦には、放射性物質放出事故を防ぐための何重もの安全確保の仕組みが備わっていることに加えて、4重もの堅牢な障壁が放射性物質を閉じ込めています」。

外務省は市民向けのパンフレットで、原子力艦船の安全性を保証しました。しかし今回の事故では、「何重もの安全確保の仕組み」や「4重もの堅牢な障壁」が役に立たないことが分かりました。

ところで、このパンフレットには、次のような記述もあります。

⇒「原子炉の事故が起きて、人に放射能被害を与えたり、環境の放射能レベルに影響を与えたことは一度もありません」。

⇒「原子力艦の寄港に伴い人体及び環境に影響を与えるような放射性物質の異常値が観測されたことは、一度もありません」。

この部分で外務省は、原子炉の事故や放射能の異常値を、「人や環境に影響を与える」レベルに限定しています。今回のプレスリリースでも、「人体や環境に影響を与えるものではない」と強調しています。

外務省は、人や環境に影響を与えないレベルであれば、放射能漏れが起きても問題ないと考えているのかもしれませんが。

原子力空母ジョージ・ワシントン 入港阻止全国集会

9月25日は横須賀へ

反戦・反基地運動に参加する全国の仲間の皆さん！！ 報道などによると、米海軍原子力空母「ジョージ・ワシントン」の横須賀入港日は、9月25日が濃厚になってきました。そこで私たちは、その日の夕刻に、下記のような抗議集会を開催します。ぜひ、参加してください。

日時●9月25日（木） 集会 18:30～ デモ 19:30～

場所●横須賀市・ヴェルニー公園（横須賀市汐入町1-1）

京浜急行「汐入駅」・JR 横須賀線「横須賀駅」ともに下車5分

内容●横須賀現地の情勢報告・国会情勢の報告・参加団体からのアピール・ほか

主催●フォーラム平和・人権・環境 神奈川平和運動センター 三浦半島地区労
原子力空母横須賀母港化を許さない全国連絡会 ほか

事前の行動にも、ぜひ参加してください

◇ミニピースフェスティバルと母港化阻止座り込み行動

期間●9月20日（土）～9月24日（水）

時間●9:00～18:00

場所●横須賀市・ヴェルニー公園

主催●横須賀ピースフェスティバル実行委員会 ほか

◇全国参加座り込み行動

日時●9月24日（水） 14:00～18:00

場所●横須賀市・ヴェルニー公園

取扱団体

フォーラム平和・人権・環境

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台3-2-11 総評会館1階

電話 03(5289)8222 FAX03(5289)8223

★平和フォーラムのHP www.peace-forum.com

★STOP!!米軍・安保・自衛隊のHP

www.peace-forum.com/mnforce/mnforce.html